

世界の脳卒中の原因の 9 割を占めるリスク因子 10 項目が明らかに

脳卒中は死亡や身体障害の主要原因であり、とくに低所得国や中所得国でその傾向は顕著である。本研究では、世界各地域における重大かつ修正可能な脳卒中リスク因子を定量化することを試みた。

2007 年 1 月～2015 年 8 月にかけて、アジア、北米、ヨーロッパ、オーストラリア、中東、アフリカの 32 か国 142 か所の医療機関を通じてケースコントロール試験を実施し、急性脳卒中のリスク因子について評価した。被験者は、発症 5 日以内で入院 72 時間以内の急性脳卒中患者 13,447 例（虚血性脳卒中 10,388 例、脳内出血 3,059 例）と、入院中または地域居住に対照症例 13,472 例であった。オッズ比および人口寄与危険度割合（以下、PAR）を算出した結果、全脳卒中発症と関連した因子は、PAR の高いほうから順に上位 10 項目は、(1)高血圧症または収縮期/拡張期血圧が 140/90mmHg 以上（オッズ比：2.98、PAR：47.9%）(2)定期的な運動（同：0.60、同：35.8%）(3)アポリポ蛋白 B/A1 比（最高三分位の最低三分位に対するオッズ比：1.84、上位 2 三分位の最低三分位に対する PAR：26.8%）、(4)食事（修正代替健康食指数の最高三分位の最低三分位に対するオッズ比：0.60、同上位 2 三分位の最低三分位に対する PAR：23.2%）(5)ウエスト・ヒップ比（最高三分位の最低三分位に対するオッズ比：1.44、上位 2 三分位の最低三分位に対する PAR：18.6%）(6)精神的ストレス（オッズ比：2.20、PAR：17.4%）(7)喫煙（同：1.67、同：12.4%）(8)心臓起因のもの（同：3.17、同：9.1%）(9)アルコール摂取（高頻度または 1 回の摂取量が多い人の非摂取・元摂取者に対するオッズ比：2.09、現摂取者の非摂取・元摂取者に対する PAR：5.8%）(10)糖尿病（同：1.16、同：3.9%）であった。これらの 10 項目のリスク因子を総合した PAR は、世界の全脳卒中の 90.7%だった（虚血性脳卒中 91.5%、脳内出血 87.1%）。また、地域間で大差なく（最も低いアフリカ地域で 82.7%、最も高い東南アジアで 97.4%）、性別（男女とも 90.6%）や年齢（55 歳以下 92.2%、55 歳超 90.0%）でも大きな差はみられなかった。一方、個々のリスク因子の重要性については地域差がみられた。また、高血圧症は脳内出血リスクに、喫煙・糖尿病・アポリポ蛋白・心臓因子は虚血性脳卒中リスクに関連が強かった（ $p<0.0001$ ）。

したがって、本研究により潜在的に修正可能な脳卒中の 10 のリスク因子が確認され、それらが世界の主要地域および人種、男女、全年齢を含む脳卒中の PAR のおよそ 90% と関連していた。一方で、個々のリスク因子については地域差も認められ、それらが脳卒中の頻度など世界的なばらつきに関連していることが示された。今回の結果は、世界的または地域別の脳卒中予防プログラムの作成を支持するものとなる。

出典：Lancet. Published online Jul 15, 2016; pii: S0140-6736(16)30506-2